

別表2(答申第302号)

文書	文書の構成		実施機関が不開示とした情報	実施機関の判断			審査会の判断		
				第2号	第3号(建)※	第3号(地)※			
本件文書2	計画変更確認申請書		最高の軒の高さ、屋根・外壁・軒裏仕様、階の高さ、居室の天井の高さ、横架材間の垂直距離		○				
			居室の床の高さ		○		開示		
	構造計算によって建築物の安全性を確かめた旨の証明書の写し		最高の軒の高さ、構造計算プログラム名称		○				
			建築物の区分、別添の構造計算書に係る構造計算の種類		○		開示		
	一級建築士免許証の写し		生年月日	○					
	求積図		全部		○				
	仕上表		全部		○				
	1階平面図		建築物内部の寸法、室の名称、室面積、設備・備品等の名称		○		開示		
			凡例		○				
	2階平面図・塔屋平面図		凡例、屋根の材質		○				
			凡例、屋根の材質以外の部分		○		開示		
	立面図		全部		○		開示		
	断面図、断面詳細図、平面詳細図		全部		○				
	建具キープラン、建具表		全部		○				
	構造図	地質柱状図(ボーリング柱状図)		設計GL、杭の位置		○			
				ボーリング調査担当者氏名	○				
		上記以外の構造図		調査位置図及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図以外全部		○			
	構造計算書		各項目の表紙、目次		構造計算プログラムの名称、構造計算プログラム所有者、国土交通大臣認定年月日・番号、(財)日本建築センター性能評価月日・番号、構造計算プログラム実行機種		○		
			構造計算概要書	建築物の概要		軒の高さ、基礎の底部の深さ、構造上の特徴、構造計算方針、プログラムの名称、使用する材料の設計基準強度又は品質及び使用部位等、使用する材料の許容応力度等、略図等、特別な調査又は研究結果等説明書 適用する構造計算の種類		○	
		その他の部分		設計用一時固有周期の算出方法、地震力(概要)、その他の荷重・外力、水平力分担、鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造における壁量・柱量の確認、層間変形角・剛性率、損傷が生ずるおそれのないことについての検証内容、偏心率、構造特性係数、保有水平耐力計算の結果		○			
	基礎・地盤説明書		概要		基礎の工法の種別、位置、形状、寸法、材料の種別、支持層の位置、層の構成及び地盤の特性地、地盤の許容応力度並びに基礎ぐいの許容支持力の数値及びそれらの算出方法		○		
			認定書写し		全部		○		
			ボーリング柱状図		ボーリング調査担当者氏名		○		
					杭の位置			○	
調査結果		土質試験結果のうち、冒頭の説明文、土質試験一覧表及び土性図(試料番号、粒度組成、液性限界、塑性限界、自然含水比、土粒子の密度、湿潤密度、間隔比、一軸圧縮強さ、圧密降伏応力、圧縮指数及び全応力)				○	開示		
		土質試験結果(冒頭の説明文、土質試験一覧表及び土性図を除く。)、孔内水平載荷試験結果、地層推定断面図、液状化検討結果、孔内水平載荷試験整理図				○			
建築物の構造設計概要		構造計算プログラムの名称、軒の高さ、骨組形式、基礎種別			○				
杭基礎の設計(設計概要)		杭種、工法、使用する杭、支持層、杭長、周面摩擦力、負の摩擦力、引抜き力、液状化、水平力			○				
杭基礎の設計(地質柱状図)		基礎断面、摩擦力考慮範囲			○				
その他の部分		全部			○				

※(建)は建築士事務所、(地)は地質調査会社を意味し、それぞれの正当な利益を害すると判断した情報に○を付した。